次世代へ平和の尊さを語り継ごう

▲交流会での発表の様子

終戦から今年の夏で58年目。戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを体験した世代の人が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、今年も8月8日(金)～10日(日)に長崎へ「播磨町平和特使」を派遣。また、8月17日(日)～18日(月)には「広島平和のバス」を実施し、家族・友だちと平和の大切さを考えました。

「播磨町平和特使」としてピースフォーラムに参加して

播磨南中学校３年
藤本　佳奈子さん

初日のピースフォーラムでは、グループに分かれて平和について意見交換を行いました。そこでの主題は“平和を妨げているものは何か。そしてそれを無くすために、自分たちでできること”でした。少年犯罪やケンカなどさまざまな問題が出され、私も自分にできる事はどんどんやっていこうと思いました。

2日目は平和式典に参列し、その後のフォーラムでは、各自治体ごとに地方の方言を使って平和宣言各地方バージョンを作りました。播磨町の内容は“少年犯罪について、そしてそれについて自分たちができる事”でした。播州弁を使って作った平和宣言はとても良い物になったと思います。身近な事をきちんとすることで、この町も日本も世界も、もっと平和になるだろうと思います。この3日間とても良い勉強になりました。

播磨南中学校３年
岡井　愛（めぐみ）さん

私は、ピースフォーラムに参加して、この2日間で“今”でなく、“過去”について考えました。

今回、自分の心に強く残ったことは、まず１つ目に「被爆者体験講話」です。爆心地から、たった2㎞でおこった原子爆弾の恐ろしさなど、今の生活では決して考えられない実際の体験談を聞くことができました。

2つ目に、「原爆資料館の見学」でした。そこで“戦争”と長崎に落ちた“原爆”のすべてを知りました。播磨町では、決してあじわうことのない、貴重な映像をたくさん目に焼きつけました。

今、戦争を伝えてくれる人、教えてくれる人、興味を持つ人…　そんな人々が減っています。だから、自分たちの手で、できることから始めたい。人々にこの学んだことを伝えて、平和な世界＆未来をつくっていきたいと思いました。

播磨中学校２年
川原　満香さん

私は、中学校の代表で平和特使という役目を果たすため、長崎に行きました。

平和式典では、耳に障害をもつ方の話を聞くことができました。被爆した日、何も聞かされず、ただ普通の爆弾を落とされたと思っていたそうです。このような悲惨な出来事を後から聞かされる方の気持ち、全部をわかることは出来ないけれど、私なりに少し理解することはできた気がします。

今回参加したことで、今まで知らなかったことやいろんな経験ができ、これからの中学生活に非常に役に立つものとなりました。戦争を知らない私たちにとって、平和な世の中に生きていることがとても幸せなことだと改めて思いました。世界中のどこかで今でも戦争が行われています。私たちがこれから大人になり、罪のない人々が死んでいく戦争が無くなるような世の中にしていきたいと思います。

播磨中学校２年
高見　明世さん

私が平和特使に応募したのは、「戦争」の残酷さ、「平和」の意味、そして『命の尊さ』について深く学びたかったからです。

長崎に行く前、ＨＰなどで８月９日の事をたくさん調べました。でも実際、原爆資料館でそれを目の当たりにすると本当に声が出ませんでした。当時の写真や面影のない空ビン・弁当箱、たくさんの悲惨な絵、どれも頭に焼きついています。ひどすぎて涙も出ませんでした。中でも『11時2分』を指したままの時計があり、あの日を絶対忘れちゃいけないと思いました。

何の罪もない人が何万人も殺されている事、何人もの人がひどい悲しみにおそわれた事を初めて知り、本当に人の命の尊さを理解できた気がします。

今回長崎で、せっかく良い経験をしたのだから、次は私が、この想いを次の世代に伝えていきたいです。

家族で学んだ 広島平和のバス

▲今回参加された皆さん

教えてあげたい

蓮池小学校４年
浜野　千咲さん

原爆資料館で、こげたお弁当箱や、水筒、三輪車を見ました。一瞬で広島に爆弾を落とし、一瞬でみんなが死ぬ。一生懸命に生きようとする人もいれば、生きたくても死んでしまう人もいた。とてもつらくて悲しく、子をなくした親のうらみ、悲しみは、一生消えないだろう。

戦争は「負けました」というまでやっているのだろうか。たくさんの人が死に、悲しむことを教えてあげたい。もがき、苦しむ人たち。それを見て、アメリカの兵隊は笑っていたのだろうか。想像すると、とても怖いので、もうおきてほしくありません。日本も、絶対やってはいけない。大人になったら教えてあげたい。

心のつながりが大切

播磨小学校５年
藤原　正樹くん

被爆体験者の話を聞き、一発の原子爆弾による爆風としゃく熱の炎で人の命や笑顔などを一瞬のうちにうばい、広島の街は傷つき、地獄と変わってしまったなんて本当にこわいことだと思いました。

今までぼくは、原爆のことをあまり知らなかったけど、原爆による悲しい現実を知り、絶対に反対しなくてはいけないと思いました。

今後、平和な社会を作るのにぼくにできることは、思いやりをもち、お互いの心を理解し合える心を自分で育てていくことだと思いました。そして、一人でも多くの人との、心と心のつながりがあることが大切だと思いました。

幸せを祈ります

播磨西小学校５年
折田　美香さん

日本もアメリカも、14歳ぐらいになると絶対に戦争に行かなきゃならなかったそうです。私なら絶対イヤです。やりたくてやったわけじゃないのに…　互いの国をもっと思いやっていれば、戦争なんて起こらなかったかもしれないのに、こんな殺し合いに…　とても悲しいです。

だれもこんなことを命令しなかったら、平和で夢のある楽しい生活を送っていられたのに。戦争で人の命を左右する。

私はなんのために戦争はあったのかわかりません。でも、もし私がそんなえらい人だったら、戦争なんかやめて幸せを祈ります。みんな仲良く、平和に。戦争なんてなかった時のように。

みんな仲間なのに

播磨南小学校４年
木田　翼くん

戦争は、なぜしなければならないのでしょうか。関係ない人も、ひどい目にあわなければならない。子どものけんかは、手足で蹴ったりなぐったりですむけど、大人のけんかだと、それだけではなくミサイル、ナイフ、爆弾など物を使って殺し合いになる。人間は、みんな仲間なのに、なぜ殺したい気持ちになるのか？

人間は、一度命を落としてしまうと、それまで。戦争なんて一つもいいことがない。すべて悪いことばかり。原爆を落とした敵を訴えてやりたい。

平和祈念講話会

８月４日（月）、中央公民館で「平和祈念講話会」が行われました。

今年も町内の中学１年生と住民の方約360人が参加。広島の被爆体験を語り継ぐ「かたりべ」の話に耳を傾けました。

講師は広島市在住の植田規子（のりこ）さん。被爆した時の様子やその後の苦しい生活などを語られ、「多くの人の犠牲で今日の平和があることを忘れないでほしい」と訴えられました。